http://decfamily.p1.bindsite.jp/2012/

We 15R

No.047　12/06/26

考える時のＢＧＭ

村上春樹の『１Ｑ８４』が文庫本になったので読み返している……出たばかりの時に単行本を買って読んだのだが、文庫本が出たのでまた買ったのである、ってわけで、村上さんの印税にはだいぶ協力しているのであるが、その一節を引用

＊

天吾は台所で夕食の用意をした。

（中略）天吾は『マザーズ・リトル・ヘルパー』や『レディ・ジェーン』を聴きながらハムときのことブラウン・ライスを使ってピラフを作り、豆腐とわかめの味噌汁を作った。カリフラワーを茹で、作り置きのカレー・ソースをかけた。いんげんとタマネギの野菜サラダも作った。料理を作ることは天吾には苦痛ではない。彼は料理を作りながら考えることを習慣にしていた。日常的な問題について、数学の問題について、小説について、あるいは形而上的な命題について、台所に立って手を動かしていると、何もしていないときより、うまく順序立ててものを考えることができた。

＊

「天吾」というのはこの小説の主人公で、予備校で数学を教えながら趣味の小説を書いているという設定である。『マザーズ～』はローリングストーンズの古いアルバムに収録されている曲名。この場面で天吾は「ふかえり（深田絵里子）」という重要登場人物と同居しているのであるが、彼女がレコードをかけているのである（ちなみに、舞台が1984年なので、ＣＤでもＭＤでもiTunesでもなくて「レコード」である…）。

おもしろいなぁと思うのは、「料理を作りながら考えることを習慣にしていた」というところ。君たちはこういうことはない？

私は、クルマを運転しながら考え事をすることがよくある。クルマを運転しながらなんて危ないのでは？…と思われるかもしれないが、それがそうでもない。料理をしながらだって、包丁を使ったり火を使ったりするわけだから、それなりに危ないといえば危ないといえそうだが、そういう方がむしろうまく考えられることがあるのである。

信号を見落としたり、包丁で手を切ったりするほど考え事に集中しているわけではない。しかし、そういう行動をしながら頭のどこかで別のことを考えていると、突然イイアイディアがひらめいたり、解決できなかったことに方向性が見えてきたりするものなのである。だから、（省エネの最近はあまりしなくなったが）かつては考え事をするためにクルマを運転するということもあった。

＊

勉強する時にＢＧＭを流すと、捗る人と捗らない人がいるようだ。ＢＧＭの方に注意がいってしまうといけないらしいから、流すＢＧＭの種類によるのだろう。図書館よりも、適度な騒音のあるファミリーレストランの方が勉強が捗ったという調査結果もある。適度な雑音がむしろ集中には必要らしい。人間は（人間の脳は？）なかなか面白い。